

五段位筆記試験研修の開催について

五段位筆記試験の試験問題は、基本的には「そば打ち教本」から出題されているところですが、出題範囲は広く、専門的な事項もある中で、受験者の高齢化も進んでいるところであり、五段位を目指す会員にとっては相当な負担になっているとの指摘がなされているところです。

このため、令和5年度は筆記試験当日に試験科目毎に講習を行ってから試験を実施するなどの措置がとられたところです。

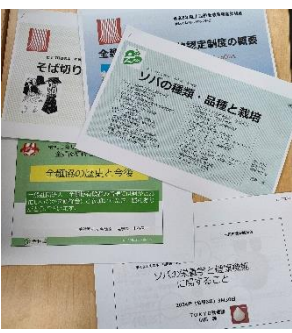
このような動きに対して、一部の支部でも学科試験講習を実施しているところですが、研修センターにおいても全国の会員を対象に「五段位筆記試験研修」を開催しました。

研修は、定員30名で募集したところ、首都圏支部はもとより全支部から参加があり、3月30日及び4月5日の2回に分けて実施し、50数名の方が受講されました。

実施に当たっては、より多くの方が合格されるよう実践的なものとしたところですが、「そば打ち教本」に興味を持ち、その内容を理解していただき、五段位として身に付けておくべき知識の習得もしていただくよう、科目ごとに補助テキストを使い要点の解説等に努めたところです。

また、研修の初めに今日の全麵協の礎を作られ、発展に尽くされた中谷信一理事長及び段位認定制度の拡充・発展に努められた加藤憲理事による当時の時代背景や課題等を踏まえた特別講義も設けました。

受講アンケート結果では、研修全般について、45名の受講者が「満足」、「やや満足」と回答していただく一方で、内容に物足りなさを感じた、開催時期が遅い、地方での開催等々のご意見もいただいたところでもありますので、今後も開催方法、内容等について、皆様のご意見を踏まえたものとなるよう検討して参ります。



研修センター運営部長 萩原 敏彦